

3. 人づくり

(1) キュレーター・インストラクター制度

a) 目的

2002年、「いなみ野ため池ミュージアム」を具体的に推進するため、学識者や実践活動団体の知識・技術を導入する『いなみ野ため池ミュージアム・キュレーター』及び『いなみ野ため池ミュージアム・インストラクター』制度が設立されました。

b) キュレーターの活動

- ・「ため池協議会」及びその設立準備中のグループ等への組織の設立・運営等に係る指導、助言
- ・実践活動の企画・具体的展開等に係る指導、助言



フィールドワークでの講義

キュレーター実績

2007 年	登録者数 28 名 実績 13 人
2008 年	登録者数 30 名 実績 7 人
2009 年	登録者数 33 名 実績 28 人
2010 年	登録者数 35 名 実績 20 人
2011 年 2 月末	登録者数 36 名 実績 23 人

※登録者数は延べ人数とする

※「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」が引き継いでからの実績

小学校での疏水学習



キュレーター

専門分野	氏名	役職（就任当時）
農業経済	池本廣希	兵庫大学教授
景観形成	上原正和	兵庫大学短期大学部教授
地域文化	金子哲	兵庫大学准教授
土木計画学・地域政策	瀧本眞一	兵庫大学教授
地域づくり	竹田直樹	兵庫県淡路景観園芸学校准教授
地域開発	田端和彦	兵庫大学教授
地域文化	久武哲也	甲南大学教授
緑化・修景	平田富士男	兵庫県淡路景観園芸学校教授
景観生態	藤原道郎	兵庫県淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員
緑化・修景	山本聡	兵庫県淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員
まちづくり	藤本真里	兵庫県立人と自然の博物館 研究員
地理学	南埜猛	兵庫教育大学准教授
都市計画・生活環境計画	大塚毅彦	国立明石工業高等専門学校教授
魚類生態・陸水生物	田中哲夫	兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
河川生態学・水生昆虫の分類と生態	三橋弘宗	兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
野生動物保護管理	横山真弓	兵庫県立森林動物研究センター主任研究員
地球環境・生態系	木下一成	兵庫県立大学非常勤講師
第四紀学・保全生態学・淡水産藻類	佐藤裕司	兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
人文地理学（農業水利）	森本眞一	明石溜池研究会代表
農村計画	星野敏	京都大学教授
ランドスケープデザイン・建築設計	西田潔史	一級建築士事務所ランド・トレース
地域計画・ランドスケープデザイン	工藤和美	国立明石工業高等専門学校准教授
地理学	田中眞吾	神戸大学名誉教授
地理学	藤崎和生	兵庫地理学協会幹事
税務	山下誠三	荒井会計事務所
社会	小野晴彦	元小学校教諭(小説「赤い土」の作者)
保全植物学・植物分類学	鈴木武	兵庫県立人と自然の博物館研究員
地域計画・ランドスケープデザイン	平石年弘	国立明石工業高等専門学校准教授
都市・地域計画	森川稔	滋賀県立大学准教授
地理学	高松武司	兵庫教育大学コーディネーター
民俗学	田下明光	日本民俗学会会員・明石市文化財審議員
土地改良事業	川口靖敬	元兵庫県三木土地改良事務所長
農村計画・農業土木	三宅康成	兵庫県立大学准教授
水産業、食生活、環境保全、汚染	鷲尾圭司	独立行政法人水産大学校理事長
土地改良事業全般	安國庫生	元兵庫県神戸土地改良事務所長
水草、樹木	碓井信久	兵庫・水辺ネットワーク幹事

※現在までの登録実績 計 36 名

c) インストラクターの活動

- ・“水辺空間”にかかわる活動を実践するグループ等（以下「実践グループ」という。）への指導、助言

活動例

- ・水草・昆虫・野鳥等についての説明・観察指導
- ・小学生の水辺に関する学習の企画展開
- ・ため池の水質調査
- ・東播磨ため池の歴史・文化の解説



動植物の説明

インストラクターの実績

2007 年度	登録者数 156 名 実績 47 人
2008 年度	登録者数 161 名 実績 48 人
2009 年度	登録者数 171 名 実績 42 人
2010 年度	登録者数 186 名 実績 102 人
2011 年度 2 月末現在	登録者数 199 名 実績 62 人

※登録者数は延べ人数とする

※「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」が引き継いでからの実績

水辺観察会



(2) 講座「いなみ野ため池学」

「いなみ野」のため池を通して地域を研究し、学生を育てる大学教育支援プログラムの一環として、地域に公開、広くその知見を深めるために実施されました。

ため池の歴史・文化、環境、地域づくりなどをテーマに、大学生や一般県民を対象とし、年 10 回程度（2003-2007 年）開催し、約 300 名（大学生を除く）が参加しました。

a) 目的

- ・これからの地域づくりへと活用していく途を探る契機とする
- ・地域学として新しい学びの機会を立ち上げる

b) 開催実績

いなみ野ため池学講義風景



フィールドワーク



2003 年度 受講者 71 名（学生を除く、以下同じ）

日時	テーマ・講師
10 月 3 日	『いま、なぜため池か？』 池本廣希（兵庫大学教授）
10 日	『ため池群と用水』 瀧本眞一（兵庫大学教授）
17 日	『先人の遺産を次代の資産に』 長尾義純（神戸新聞社北播総局長）
19 日	フィールドワーク 『東播磨地域の農業用水利施設をたどる』 兵庫地理学協会
24 日	『風景とため池景観』 上原正和（兵庫大学短期大学部教授）
31 日	『水質の基礎知識と生態系』 中井玲子（兵庫大学健康科学部講師） 松本修二（播磨ウエットランドリサーチ代表）
11 月 7 日	『野鳥の楽園をめざして～現在進行・試行錯誤』 蓮尾純子（千葉県行徳野鳥観察舎）
14 日	『水を巡る視座と伝統技術』 金子哲（兵庫大学助教授）
28 日	『ため池群及び水路網の形成過程とその歴史地理学的背景』 久武哲也（甲南大学教授）
12 月 5 日	『加古川地域の経済』 田端和彦（兵庫大学助教授）
12 日	『ため池と地域政策』 根本敏行（兵庫大学教授）
19 日	『いなみ野水辺考徳論～光はめ込むアクア・レースのほitoriから～』 玉岡かおる（作家）

2004 年度 受講者 77 名

日時	テーマ・講師
10 月 1 日	『ため池学総論～いま、なぜため池か』 池本廣希（兵庫大学教授）
8 日	『ため池群と用水～先人の知恵から現代への教訓を探ろう』 瀧本眞一（兵庫大学教授）
15 日	『水を巡る視座と伝統技術』 金子哲（兵庫大学助教授）
22 日	『風景とため池景観～ため池景観の“美”を考察しよう』 上原正和（兵庫大学短期大学部教授）
29 日	『ため池群・水路網の地理学的考察』 南埜猛（兵庫教育大学助教授）
11 月 5 日	『ため池管理の現状と将来展望』 森本眞一（兵庫教育大教育学部附属中学校副校長）
19 日	『水と生態系～ため池の循環の仕組みを学ぼう』 木下一成（兵庫県立大学非常勤講師）
26 日	『いなみ野・ため池の生物多様性』 碓井信久（兵庫・水辺ネットワーク） 大嶋範行（兵庫・水辺ネットワーク）
28 日	フィールドワーク いなみ野バードウォッチングツアー （日本野鳥の会兵庫県支部）
12 月 3 日	『検証・いなみ野ため池学～“学び”を実践活動へ』 池本廣希（兵庫大学教授）
10 日	『水辺空間と地域経済』 田端和彦（兵庫大学助教授）
17 日	『ため池と地域政策～水辺空間を活かした新たな地域づくり』 根本敏行（静岡文化芸術大学教授）

2005 年度 受講者 59 名

日時	テーマ・講師
9 月 30 日	『ため池学入門』 池本廣希（兵庫大学教授）
10 月 7 日	『ため池群と水路網の地理学的考察』 南埜猛（兵庫教育大学助教授）
14 日	『ため池群と用水』 瀧本眞一（兵庫大学教授）
21 日	『ため池水利に社会関係を調整するソフトパワーとしての祭りと伝承』 合田博子（兵庫県立大学教授）
28 日	『中世のため池、用水開発』 金子哲（兵庫大学助教授）
11 月 4 日	『風景とため池景観』 上原正和（兵庫大学短期大学部教授）
18 日	『ため池の生態系』 木下一成（兵庫県立大学非常勤講師）
25 日	『いなみ野台地のため池に暮らす生き物たち』 碓井信久（兵庫・水辺ネットワーク） 大嶋範行（兵庫・水辺ネットワーク）

27 日	フィールドワーク 地図を持ってため池を歩く 兵庫地理学協会
12 月 2 日	『明日香の池～文学と伝説を通して』 大森亮尚（兵庫大学教授）
9 日	『水辺空間と地域経済』 田端和彦（兵庫大学助教授）
16 日	『ため池と地域政策』 根本敏行（静岡文化芸術大学教授）

2006 年度 受講者 42 名

日時	テーマ・講師
9 月 29 日	『ため池学入門-地域とため池-』 池本廣希[兵庫大学教授]
10 月 6 日	『ため池群と水路網の地理学的考察』 南埜猛[兵庫教育大学助教授]
13 日	『ため池の生態系』 木下一成[兵庫県立大学非常勤講師]
20 日	『いなみ野台地のため池に暮らす生き物たち』 碓井信久[兵庫・水辺ネットワーク] 大嶋範行[兵庫・水辺ネットワーク]
11 月 17 日	『淡河川疏水にまつわる話「赤い土」について』 小野晴彦[元小学校教諭]
24 日	『ため池からのメッセージ-地域の文化力-』 合田博子[兵庫県立大学教授]
12 月 1 日	『水面に映る影～古代の池と川』 大森亮尚[古代民族研究所代表]
8 日	『風景とため池景観』 上原正和[兵庫大学短期大学部教授]
15 日	『ため池群と用水網』 瀧本眞一[兵庫大学教授]
22 日	『ため池と地域政策』 根本敏行[静岡文化芸術大学教授]

2007 年度 受講者 50 名

日時	テーマ・講師
10 月 6 日	『ため池学入門 - 地域とため池-』 池本廣希[兵庫大学教授]
13 日	『中世のため池、用水開発』 金子哲[兵庫大学准教授]
20 日	『江井ヶ島皿池の水質と植物』 碓井信久[兵庫・水辺ネットワーク] 大嶋範行[兵庫・水辺ネットワーク]
27 日	『新井用水の生態系』 木下一成[兵庫県立大学非常勤講師]
11 月 3 日	『風景とため池景観』 上原正和[兵庫大学短期大学部教授]
17 日	『池と妖怪』 大森亮尚[古代民族研究所代表]

24 日	『ため池群と用水網』 瀧本眞一[兵庫大学教授]
12 月 1 日	『ため池の新たな活用策』 工藤和美[国立明石工業高等専門学校講師]
8 日	『いなみ野のため池構造にみる地理学的要因』 森本眞一[兵庫地理学協会]
15 日	『農村集落における地域づくりの実態と展望』 横山眞佳[高畑地域づくり協議会会長]
22 日	『ため池の築造技術の変遷』 川口靖敬[兵庫県三木土地改良事務所所長]

(3) いなみ野ため池塾

講座『いなみ野ため池学』の修了生や東播磨地域ビジョン委員会水辺に学ぶプロジェクトのメンバー等を対象に、ミュージアム推進の核となるグループを養成するため実施されました。

a) 目的

- ・ため池や水路等が持つ、地域資源としての現在の価値の研究
- ・「ため池文化」を次代に継承するための記録づくり

b) 開催実績

いなみ野ため池塾講義風景



2005 年度

日時	テーマ	講師	参加者
6 月 4 日	中世五箇荘 水・技術・律	金子哲（兵庫大学助教授）	31 名
7 月 16 日	「ため池経済」市場経済志向からの脱出	池本廣希（兵庫大学教授）	26 名
8 月 27 日	農業用ため池及び用水路の今日的意義	瀧本眞一（兵庫大学教授）	30 名
1 月 27 日	入ヶ池の歴史	小山由和（東播磨ため池協議会連絡会会長）	30 名
3 月 3 日	西牧地区のため池管理	長谷川弘（西牧ため池協議会会長）	39 名
3 月 24 日	野口町北野地区のため池について	出畑耕治 出畑昌江（播磨環境会議）	29 名

2006 年度

日時	テーマ	講師	参加者
4 月 28 日	淡河川・山田川疏水事業の歴史について	岩本泰三	28 名
5 月 26 日	加古新村開発の歴史について	澤陽三（稲美町土地改良事業連絡協議会会長）	30 名
6 月 23 日	戯曲「赤い土」について	鳴海真人（日本劇作家協会会員）	39 名

(4) 流域文化サロン

加古川流域では、県内最大の河川である加古川をはじめ、ため池・水路・海岸等の豊かな水辺空間が広がり、「いなみ野ため池ミュージアム」をはじめ「水」に関わる様々な地域づくり活動が行われています。また、古くから栄えたこの流域では、国宝等の歴史・文化遺産も多く存在します。この様な地域の魅力を語り合います。

様々な分野の講演と、実践家を交えた交流会「流域文化サロン」を実施しています。

このサロンは“循環する水の路”をメインテーマに、水と人・地球、自然の営みについて、ゲストスピーカーと参加者が一体となり考えていく場として設けました。

a) 目的

- ・加古川流域の保全・活用・次代への継承を図る活動をさらに広げ、ネットワーク化し、地域づくりの新展開に向けた議論の場とする

b) 開催実績

2010 年度

サロン状況（講演）



サロン状況（意見交換，交流会）



日時	講師	テーマ	参加者
7月24日	遊磨正秀（龍谷大学教授）	ホテルが住む環境	82名
8月21日	岩槻邦男（兵庫県立人と自然の博物館館長）	生物多様性-今の自分とどうかかわるか	54名
	岡田真美子（兵庫県立大学教授）	いのちをはぐくむ水ネットワーク	
9月25日	角野康郎（神戸大学大学院教授）	ため池の生態系 -人の営みが支える多様性-	59名
10月23日	石野博信（兵庫県立考古博物館館長）	古代の人と水	42名
	播本達（リバークリーンエコ炭銀行代表）	里山と水質浄化	
11月27日	鷲尾圭司（独立行政法人水産大学校理事長）	森・里と海の連環	54名
12月25日	金子哲（兵庫大学准教授）	中世の流域	39名
	大森亮尚（古代民族研究所代表）	水面に映る影と妖怪	
1月29日	南埜猛（兵庫教育大学大学院准教授）	水利ネットワーク-ため池と疏水	39名
	瀧本眞一（兵庫大学教授）	ため池の用水路を支えた土木技術	
2月26日	森川稔（滋賀県立大学准教授）	ため池保全とまちづくり	162名
	三宅康成（兵庫県立大学准教授）		
3月26日	中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館副館長）	水辺環境の保全	131名
12月11日	加古川流域の特色ある地理・地形を体感するツアー		42名

2011 年度

	月日	講師	テーマ	参加者
第 1 回	7 月 30 日	兵庫水辺ネットワーク	生物多様性の保全 ～里山・ため池・水路・河川での活動～	100 名
第 2 回	8 月 28 日	鷺尾圭司（独立行政法人水産大学校理事長）	「里」と「海」の協働推進フォーラム ～交流による「豊かな水辺」をめざして～	350 名
第 3 回	10 月 22 日	亀崎直樹（須磨海浜水族園長）	加古川流域交流フォーラム ～海から見た森・川のつながり～	100 名
第 4 回	11 月 12 日	三浦恒夫（兵庫県農政環境部農林水産局長）	「水」・「食」・「農」・「地域」	280 名
第 5 回	12 月 24 日	地域の学生、生徒	次代につながる水辺環境	140 名
第 6 回	2 月 4 日	松本修二（播磨ウェットランドリサーチ代表） 木下一成（兵庫県立大学非常勤講師）	ため池保全と地域づくり	140 名
第 7 回	3 月 10 日	中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館副館長）	いなみ野ため池ミュージアムの新たな展開 ～いなみ野ため池ミュージアム 10 年を振り返る～	200 名
フィールドワーク	10 月 8 日	歴史・文化的遺産探訪ツアー		40 名

※参加者数は各回 100～550 名程度 2012 年 3 月

(5) 里山里池教室プロジェクト

加古川右岸には、高御位山や大藤山などの丘陵や里山を活かしたため池と特徴ある水路網が広がっています。これを維持する組織が充実し活動が活発に行われている志方西地区があります。

2008 年、「ため池や水路」が築造された歴史的な経緯やそこに培われてきた様々な文化を学び、これらの資源を保全・活用・継承する地元の取り組みの意義を共有する機会（志方西「里山・里池教室」）を設け、新しい地域づくりをめざすプロジェクトを展開しました。

これまでの講座「いなみ野ため池学」や「いなみ野ため池塾」の成果を継承していくものです。

a) 目的

- ・地域内外の交流を進め、水辺環境の保全・再生に向けた取り組みの輪の拡大
- ・インストラクターの発掘

主催	いなみ野ため池ミュージアム運営協議会、兵庫県東播磨県民局
協力	兵庫大学・ため池研究所、国立明石工業高等専門学校、志方西地区関係ため池協議会（5 団体）、志方西連合町内会（7 町内会）

里山里池教室プロジェクト・開講式



c) 開催実績

日時	テーマ・講師	参加者
(2008 年) 5 月 17 日	講 師：金子哲・兵庫大学経済情報学部准教授 テーマ：フィールドワーク入門	60 名
30 日	フィールドワーク：原大池樋 講 和：釋康祐・長楽寺住職 テーマ：「志方の歴史」 講 師：池本廣希・兵庫大学教授 テーマ：ため池総論	55 名
6 月 21 日	講 師：工藤和美・国立明石工業高等専門学校講師 テーマ：志方地区のため池と風景	53 名
7 月 19 日	講 師：松本修二・播磨ウエットランドリサーチ代表 テーマ：志方の貴重な生き物	57 名
8 月 23 日	講 師：藤崎和生・兵庫地理学協会幹事 テーマ：志方地区の地理学的分析とため池分布の考察	51 名
9 月 20 日	講 師：宮本佳典・加古川市教育委員会学術員 テーマ：志方の歴史・文化とため池	52 名
10 月 18 日	講 師：上原正和・兵庫大学短期大学部教授 テーマ：景観における神社・ため池	49 名
11 月 15 日	講 師：山下史郎・兵庫県立考古博物館企画広報課長 テーマ：志方地区の考古学的知見とため池	53 名
12 月 20 日	講 師：川口靖敬・元兵庫県三木土地改良事務所所長 テーマ：ため池の管理や水質保全を支える伝承技術	51 名
(2009 年) 1 月 17 日	講 師：瀧本眞一・兵庫大学教授 テーマ：原大池を中心とする水利ネットワーク	48 名
2 月 21 日	講 師：奥野俊博・日本野鳥の会 兵庫支部 テーマ：フィールドワーク『志方地区の野鳥』	47 名
3 月 21 日	発表会、閉会式：『研究発表』	49 名

(6) 次世代人づくりプロジェクト

次代を担う子どもたちにとってため池や水路など、農業水利施設の歴史・文化や築造に至った経緯を伝えるとともに、水辺環境の保全についての学習会を開催しています。

【水をもとめて読書感想文コンクール】

「いなみ野」台地で稲作を進める先人たちの知恵と努力を伝えるため、その歴史を象徴する「淡河川山田川疏水（略して淡山疏水）」を対象として、次代につなぐプロジェクトを発足させました。

a) 目的

- ・淡山疏水の受水地域の小学校に対し、『水をもとめて』の読書感想文の募集を行い、郷土への愛着を育む。

b) 内容

対 象：主に小学校 3、4 年生

応募数：第 1 回：	448 名	優秀賞：	9 点
第 2 回：	980 名	優秀賞：	17 点
第 3 回：	1,390 名	優秀賞：	18 点

c) 感想文の紹介

感想文の中から一部を要約し、紹介します。

長い年月をかけて淡河川山田川疏水が完成し、それが今の「東播用水事業」に引き継がれ、米づくりだけでなく、飲み水としても役立つようになりました。最近、この淡山疏水が、兵庫県の「近代化遺産」として評価され、国の「疏水百選」に選ばれたそうです。凄いことだと思いました。いなみ野の人々が「水をもとめて」頑張った力が今の緑豊かな美しい、いなみ野をつくりあげました。この大切な財産を次は、私たちが大切に守り続けていかなければならないのだと、強く思いました。

淡河川山田川疏水や御坂サイフォンのことを勉強して、「今は当たり前にある水が当時は、どんなに大切な物だったのだろう」と思いました。

「私たちの稲美町は、多くの人々の大変な苦勞によって、稲穂が美しい豊かな田園地帯になったんだなあ」。私はこの本を読んで、いなみ野台地に水を引いた昔の人々に対して、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

「水をもとめて」の制作概要

主催	いなみ野ため池ミュージアム運営協議会
企画	南埜猛（兵庫教育大学大学院准教授） 兵庫県東播磨県民局 兵庫県加古川流域土地改良事務所
文	高松武司
挿絵	多胡晴代

第 2 回読書感想文コンクール優秀作品表彰



【ため池教室・環境体験学習】

ため池のもつ文化・歴史や自然環境などの多くの機能を伝えるため、「ため池教室」や「環境体験学習」などに積極的に支援しています。

a) 目的

- ・ 小学校、中学校の子供たちに対し、ため池の成り立ちや意義、素晴らしさ、環境保全の取り組みなどを継承する。

b) 内容

・ ため池教室

ため池協議会会員や運営協議会事務局が講師となり学校及びフィールドにて実施

・ 環境体験学習

ため池ミュージアム・インストラクターの指導のもと、水辺に生息・生育する動植物の観察やふれあい体験を実施

ため池教室



環境体験学習



メダカのコタロー劇団の公演

メダカのコタロー劇団は、“みんなの環境、みんなで守ろう、みんなのために”を合い言葉に兵庫県内を中心に活動する NPO で、東播磨地域でも小学校やミュージアムイベントにおいて、子供たちへ農村環境を守ることの大切さを伝え、食と「農」を考えるきっかけづくりにも協力していただいています。

主な内容は「ため池編」「食農編」などの“環境アニメ紙芝居”等で構成する“ハグハグ環境学校”です。

参加した子供たちは、「ため池の生きものを大切にしよう」「ため池を美しくしよう」「明日から毎朝ごはんを食べる」などの思いの変化が現れています。

